

## 令和6年度第2学期終業式 式辞

本日、こうして2学期の終業式を迎えました。

2学期には、2年生にとって忘れられない思い出となったであろう修学旅行、全校生徒で盛り上がった体育祭、文化祭など大きな行事がありました。様々な場面で、体育祭、文化祭のどちらのテーマにもあった「青春」を皆さんが謳歌する姿が見られて、とてもうれしく思いました。3年生の中には、進路が決定した人も出ました。もちろん、これから本番を迎える人もいます。現役生は最後の最後まで伸びます。体調には十分気を付けて本番に臨めるようにしてください。

この4か月ほどの間、校外でもたくさんの活躍がありました。中でも私が感心したのは、「全国高校生農業アクション大賞」で準大賞を受賞したことです。これは、2022年に全国の15校に選ばれた河内晩柑救い隊「平山軍団」の3年間の取組が評価されたものです。先輩から後輩へと、その活動を引き継ぎ、まさに「継続は力なり」を見せてくれました。「結果」だけでなく「過程」から得られるものは大きいと思います。皆さんそれぞれに、この2学期に、あるいはそれ以上の期間、取り組んできた何かがあると思います。その継続した努力を称えます。ぜひ、自分で自分のことを認めてください。

さて、11月に日本を代表する詩人の一人、谷川俊太郎さんが亡くなりました。多方面で活躍し、「朝のリレー」などテレビのCMや教科書にも取り上げられていますので、皆さんも谷川さんの詩を味わったことがあるのではないかと思います。よく知っている人もいるでしょうが、今日は、「生きる」という詩の冒頭を紹介します。

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ陽がまぶしいということ

ふっと或るメロディを思い出すということ

くしゃみすること

あなたと手をつなぐこと

一つの命が生まれるのは奇跡の連続です。皆さん一人一人がかけがえのない存在です。12月6日に行われた人権集会での、周りへの感謝と優しい気持ちにあふれた全ての発表に、私は本当に感動しました。人権の日に実施している放送とともに、校外に誇れる取組だと感じています。皆さん、いつも伝えている三つのRの一つ「Respect for others 他を尊重する心」を持って、日常生活を送れていますか。自分自身を大切にしながら、感謝の気持ちを忘れず、相手の立場に立った言葉遣いや行動のとれる南高生であってほしいと心から願っています。

それでは、少し早い挨拶ですが、よいお年をお迎えください。3学期の始業式で、元気な笑顔の皆さんに再会できることを楽しみにしています。